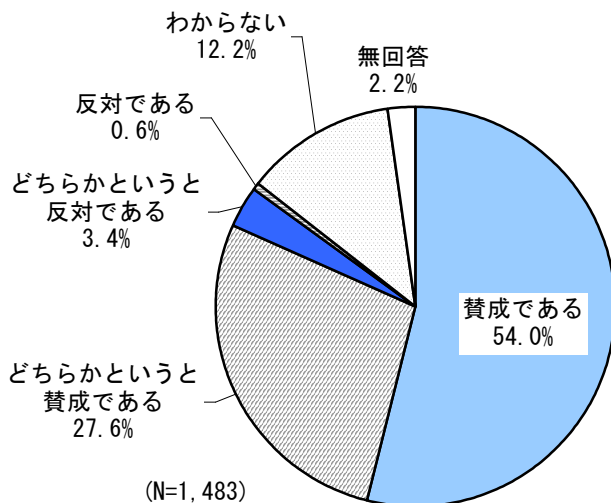


5 障害のある人の人権について

(1) 「ノーマライゼーション」の考え方に基づいた環境づくり

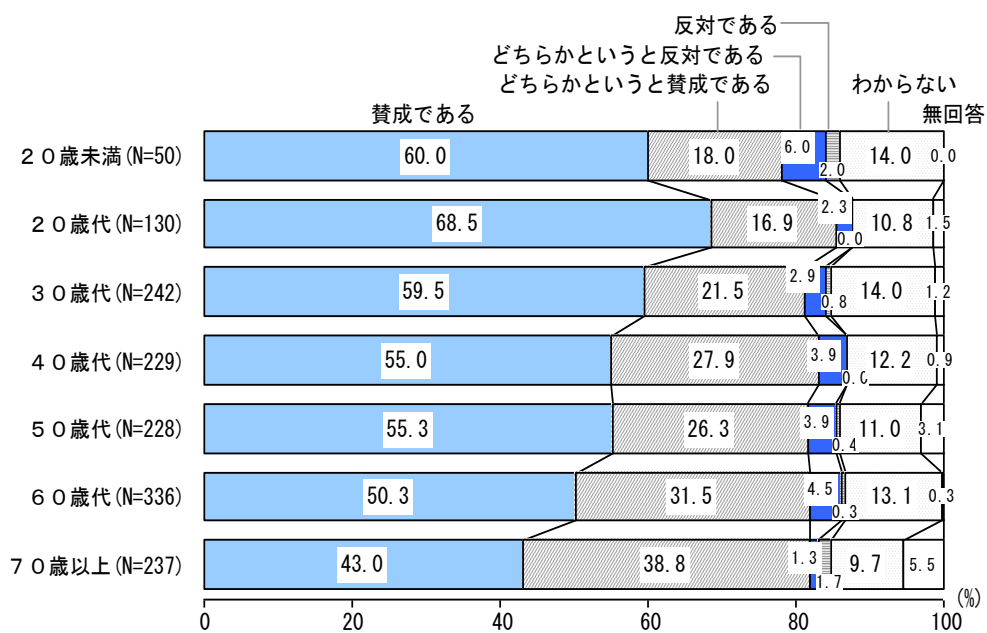
問 20 国や地方公共団体では、障害のある人が社会の構成員として地域の中で共に生活を送れるようにすることをめざした「※ノーマライゼーション」に基づいた環境づくりを進めています。そこで、この「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（あてはまる番号1つに○）
※障害者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。

【図 5-1 「ノーマライゼーション」の考え方に基づいた環境づくり】



「ノーマライゼーション」の考え方に基づいた環境づくりについては、“賛成派”（「賛成である」と「どちらかというと賛成である」を合わせた数）が8割以上を占めており、特に「賛成である」（54.0%）が過半数を占めて高くなっている。（図 5-1）

【図 5-1-1 年代別 「ノーマライゼーション」 の考え方に基づいた環境づくり】

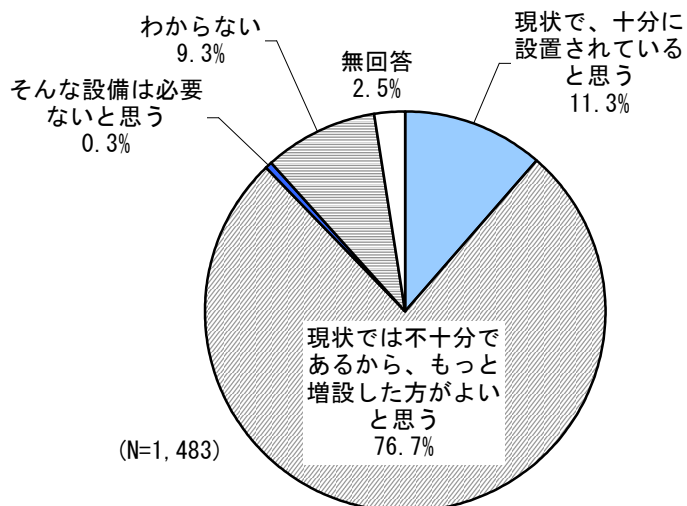


「ノーマライゼーション」の考え方に基づいた環境づくりを年代別でみると、各年代で“賛成派”が8割前後を占めており、「賛成である」の割合では、20歳代が68.5%と高くなっている。(図 5-1-1)

(2) 街なかでの障害のある人のための設備についての考え方

問 21 街のなかで障害者が暮らしやすくしていくための設備（スロープ・自動ドア・点字ブロック・案内板等）について、あなたはどのように思いますか。（あてはまる番号1つに○）

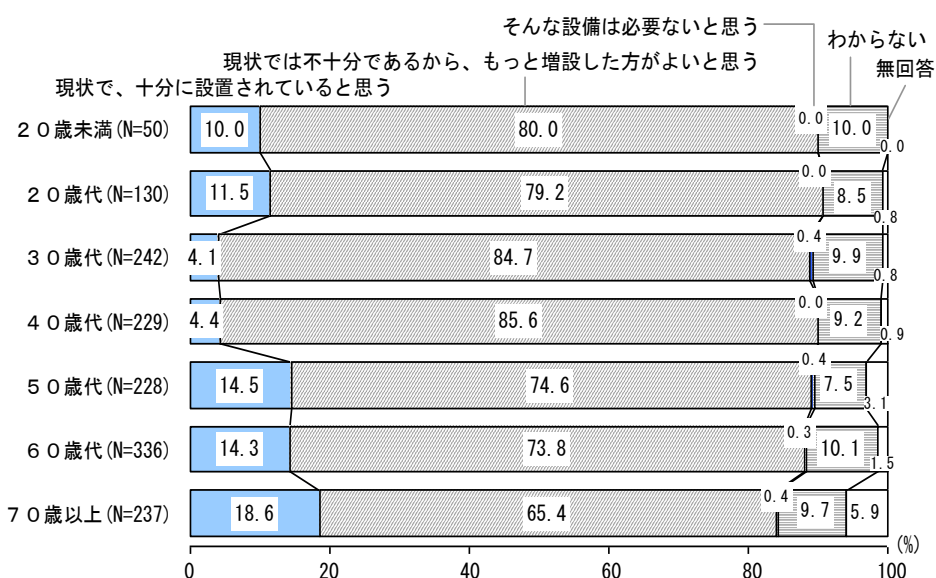
【図 5-2 街なかでの障害のある人のための設備についての考え方】



街なかでの障害のある人のための設備についての考え方として、「現状では不十分であるから、もっと増設した方がよいと思う」が76.7%と最も高くなっている。

また、「現状で、十分に設置されていると思う」では11.3%、「そんな設備は必要ないと思う」では0.3%となっている。（図 5-2）

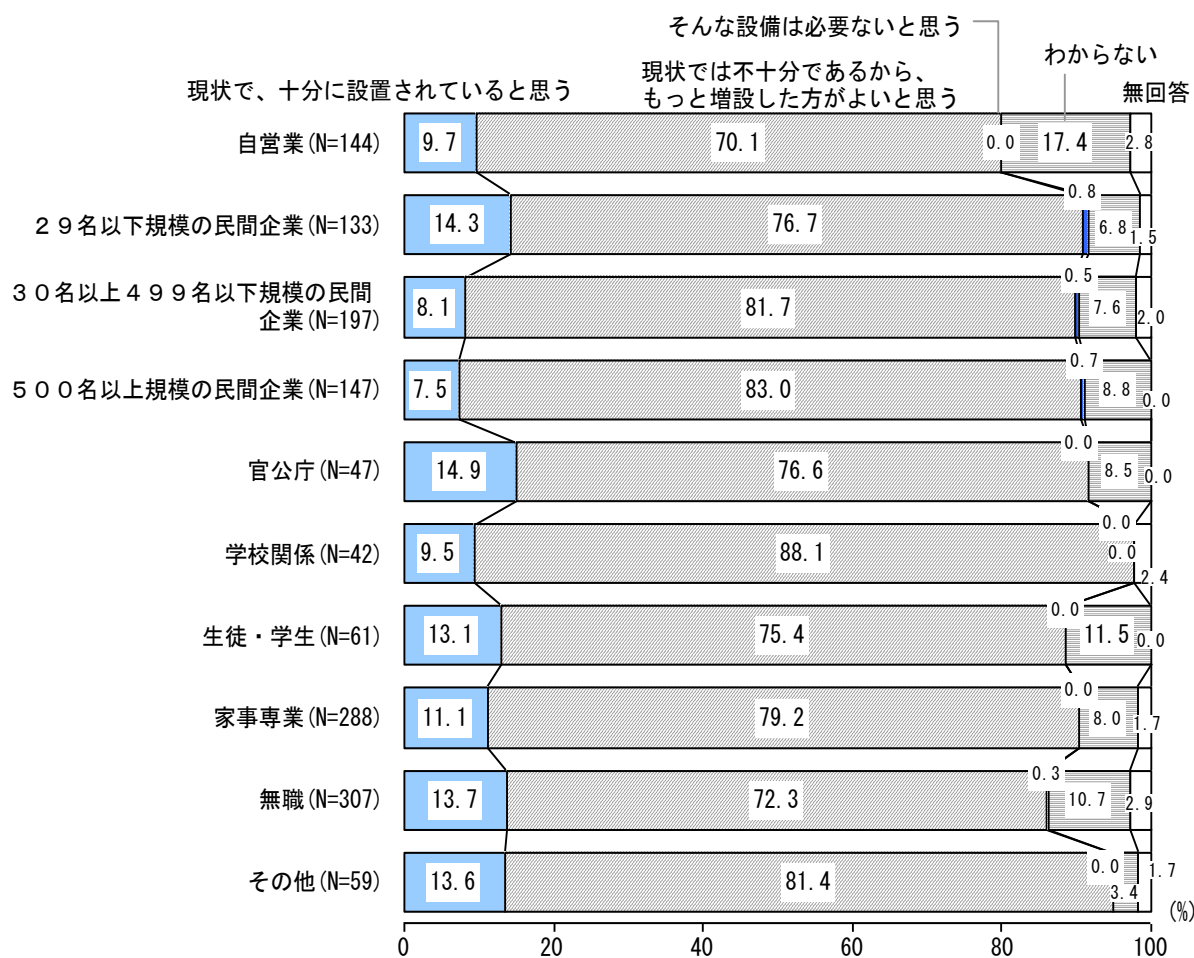
【図 5-2-1 年代別 街なかでの障害のある人のための設備についての考え方】



街なかでの障害のある人のための設備についての考え方を年代別で見ると、各年代で「現状では不十分であるから、もっと増設した方がよいと思う」が過半数を占めている。

また、「現状で、十分に設置されていると思う」では、30歳代（4.1%）と40歳代（4.4%）が1割未満と低く、70歳以上が18.6%と他の年代と比べて高くなっている。（図 5-2-1）

【図 5-2-2 職業別 街なかでの障害のある人のための設備についての考え方】



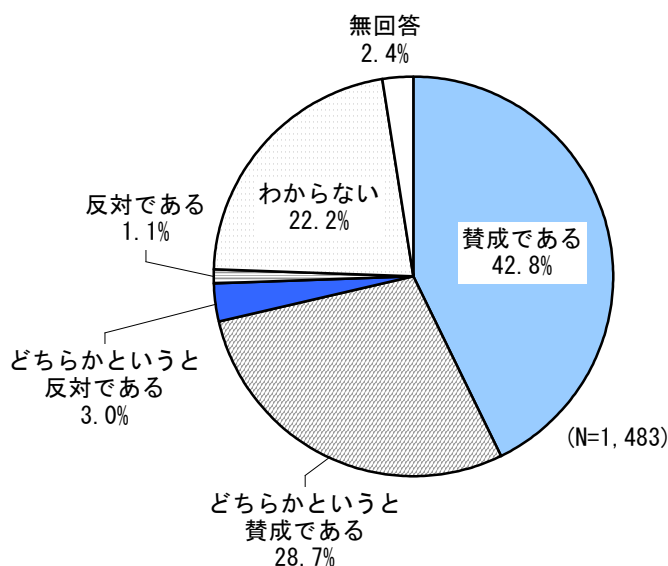
街なかでの障害のある人のための設備についての考え方を職業別で見ると、各職業で「現状では不十分であるから、もっと増設した方がよいと思う」が7割以上を占めている。

また、「現状で、十分に設置されていると思う」では、官公庁が14.9%と最も高く、次いで29名以下規模の民間企業が14.3%、無職が13.7%と続いている。(図 5-2-2)

(3) 身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方

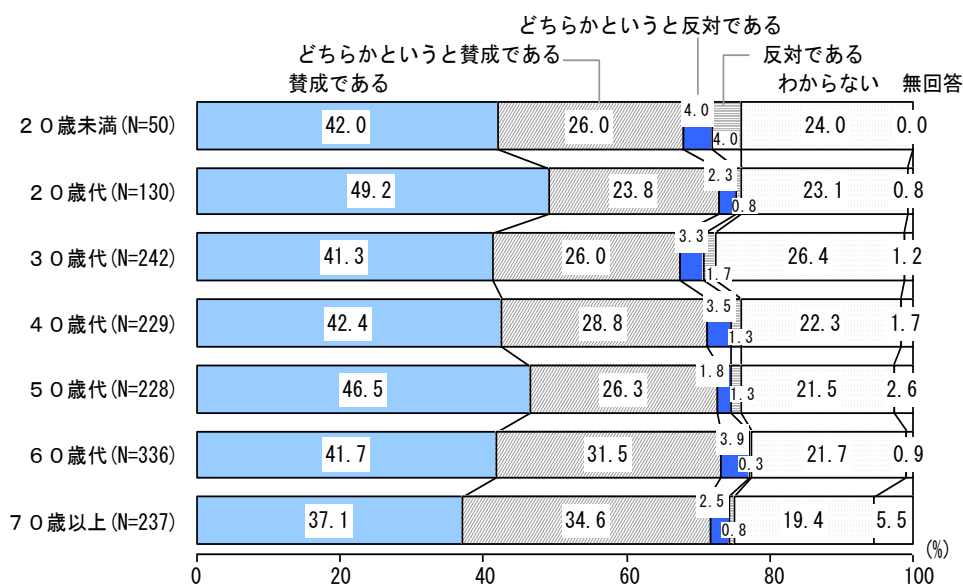
問 22 あなたの住んでいる地域に障害者関連施設が建設されるとしたら、あなたはどうしますか。（あてはまる番号1つに○）

【図 5-3 身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方】



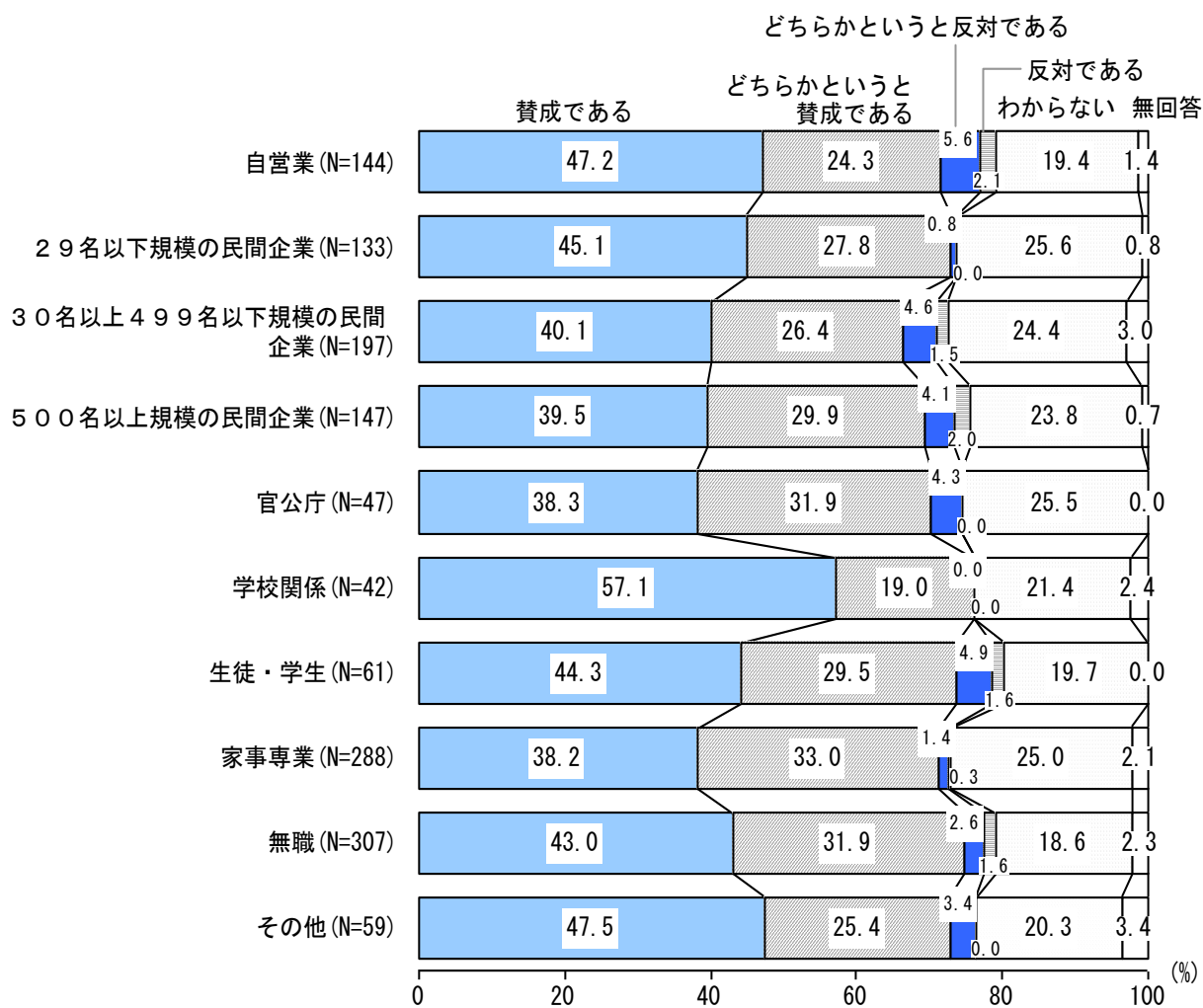
身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方については、“賛成派”が7割台と高く、特に「賛成である」が42.8%を占めている。（図 5-3）

【図 5-3-1 年代別 身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方】



身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方を年代別で見ると、各年代で“賛成派”が7割前後を占めており、「賛成である」の割合では、20歳代が49.2%と高い。ただし、20歳未満において“反対派”が最も多い（8.0%）ので、学校教育における人権教育を一層充実させていくことが必要である。（図 5-3-1）

【図 5-3-2 就職別 身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方】



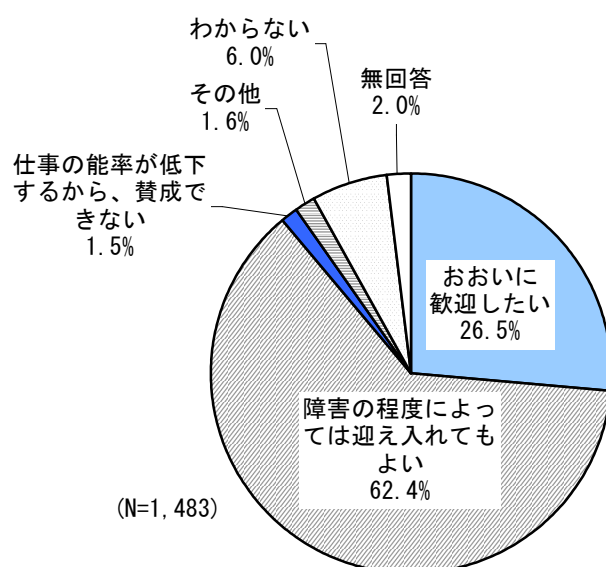
身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方を職業別でみると、各職業で“賛成派”が7割前後を占めており、「賛成である」の割合では、学校関係が57.1%と高い。(図5-3-2)

(4) 職場で障害のある人と一緒に働くこと

問 23 国は企業に対して障害者を一定の割合で雇用することを法律で義務づけていますが、職場で障害者と共に働くとしたら、あなたはどのように思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○)

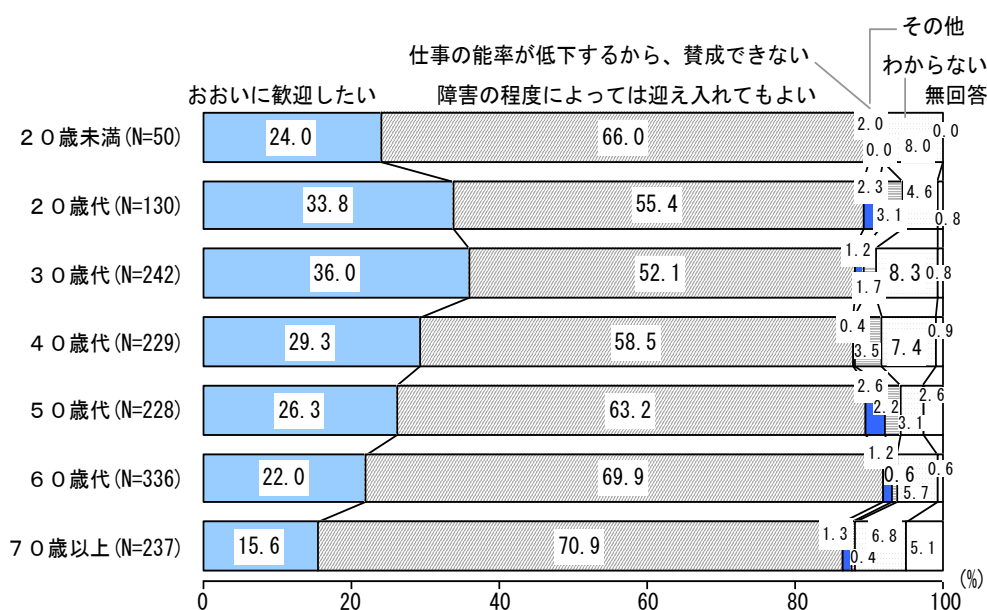
【図 5-4 職場で障害のある人と一緒に働くこと】



職場で障害のある人と共に働く場合の意向について、「障害の程度によっては迎え入れてもよい」が62.4%と最も高く、次いで「おおいに歓迎したい」が26.5%となっている。

また、「仕事の能率が低下するから、賛成できない」では1.5%となっている。(図 5-4)

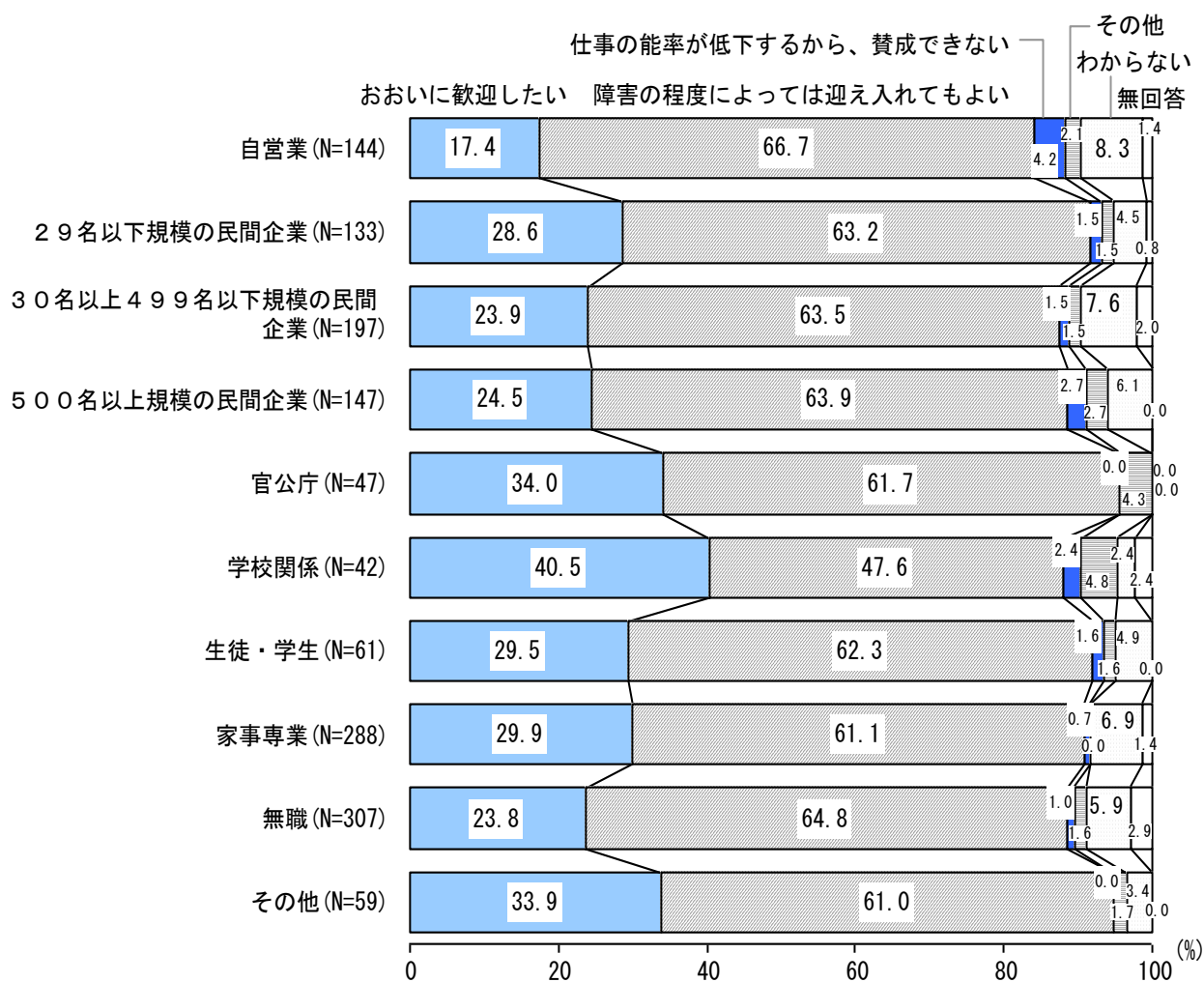
【図 5-4-1 年代別 職場で障害のある人と一緒に働くこと】



職場で障害のある人と一緒に働くことを年代別でみると、各年代で「障害の程度によっては迎え入れてもよい」が過半数を占めている。

「おおいに歓迎したい」では、20歳代（33.8%）と30歳代（36.0%）で3割台と高くなっているが、40歳代から年代が上がるにつれて割合が低下している。（図 5-4-1）

【図 5-4-2 職業別 職場で障害のある人と一緒に働くこと】



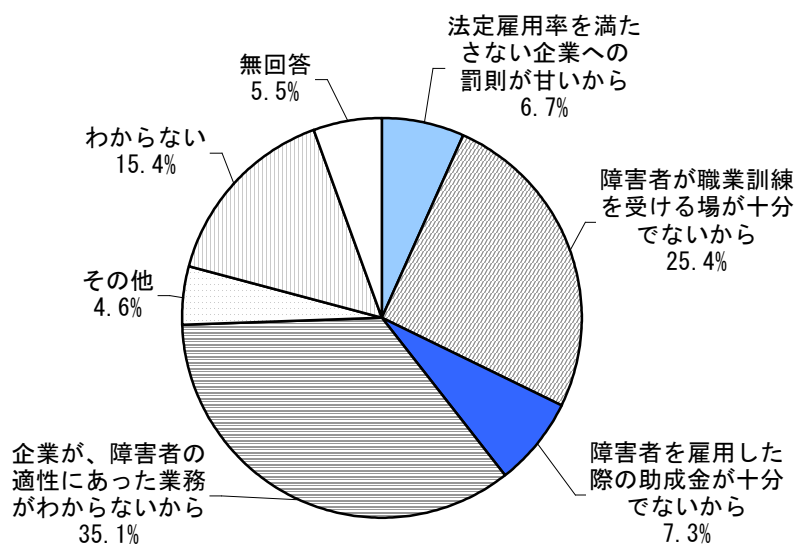
職場で障害のある人と一緒に働くことを職業別でみると、学校関係を除く各職業で「障害の程度によっては迎え入れてもいい」が6割台を占めている。

「おおきに歓迎したい」では、学校関係が40.5%、官公庁が34.0%と、他の職業と比べ割合が高くなっている。(図 5-4-2)

(5) 障害のある人の雇用が進まない理由について

問 24 なぜ、障害者の雇用が進まないと思いますか。(あてはまる番号 1 つに○)

【図 5-5 障害のある人の雇用が進まない理由について】

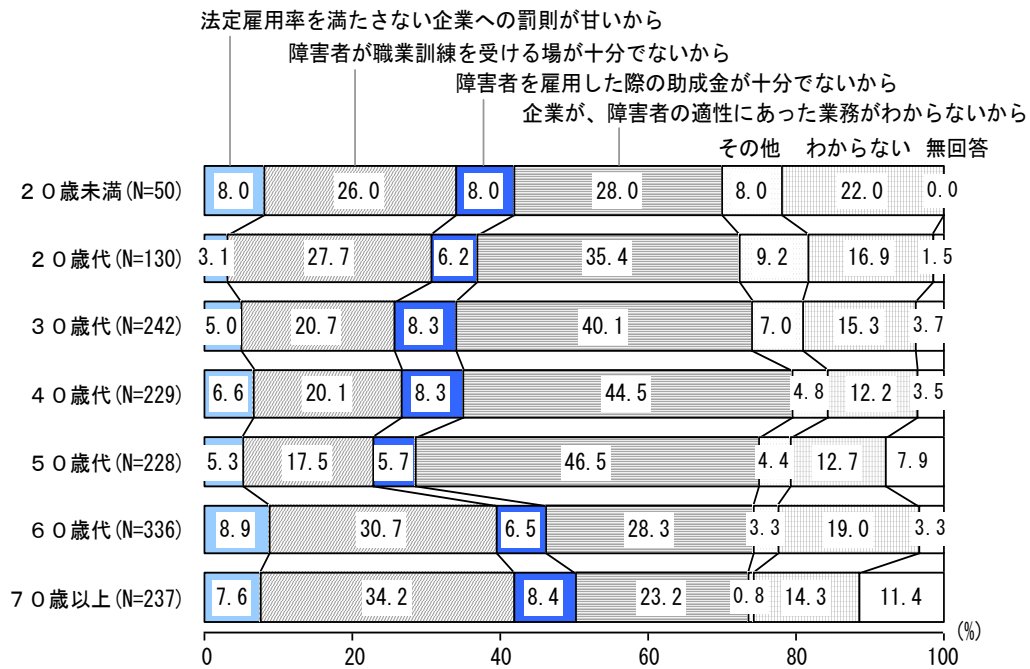


(N=1,483)

障害のある人の雇用が進まない理由については、「企業が、障害者の適性にあった業務がわからないから」が 35.1%と最も高く、次いで「障害者が職業訓練を受ける場が十分でないから」が 25.4%となっている。

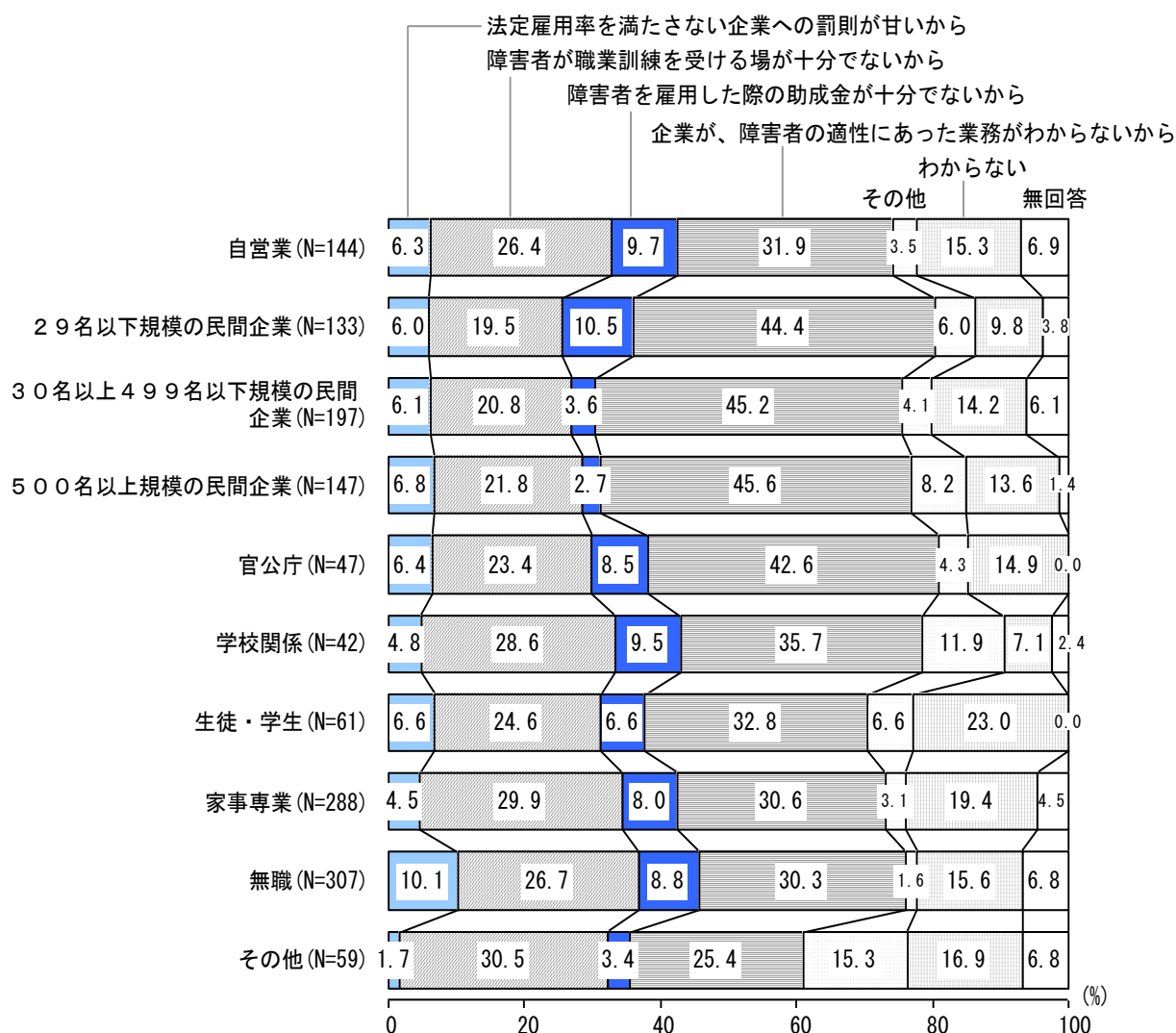
また、「障害者を雇用した際の助成金が十分でないから」が 7.3%、「法定雇用率を満たさない企業への罰則が甘いから」が 6.7%となっている。(図 5-5)

【図 5-5-1 年代別 障害のある人の雇用が進まない理由について】



障害のある人の雇用が進まない理由を年代別でみると、50歳代以下の年代は「企業が、障害者の適性にあった業務がわからないから」が最も高く、50歳代まで年代が上がるにつれて割合が上昇しているが、60歳代以上の年代では「障害者が職業訓練を受ける場が十分でないから」が3割台を占めて最も高くなっている。（図 5-5-1）

【図 5-5-2 職業別 障害のある人の雇用が進まない理由について】



障害のある人の雇用が進まない理由を職業別で見ると、各職業で「企業が、障害者の適性にあった業務がわからないから」が3割以上を占めて最も高く、特に、民間企業や官公庁では4割台を占めている。

また、「障害者が職業訓練を受ける場が十分でないから」では、各職業で2割前後を占める。
(図 5-5-2)